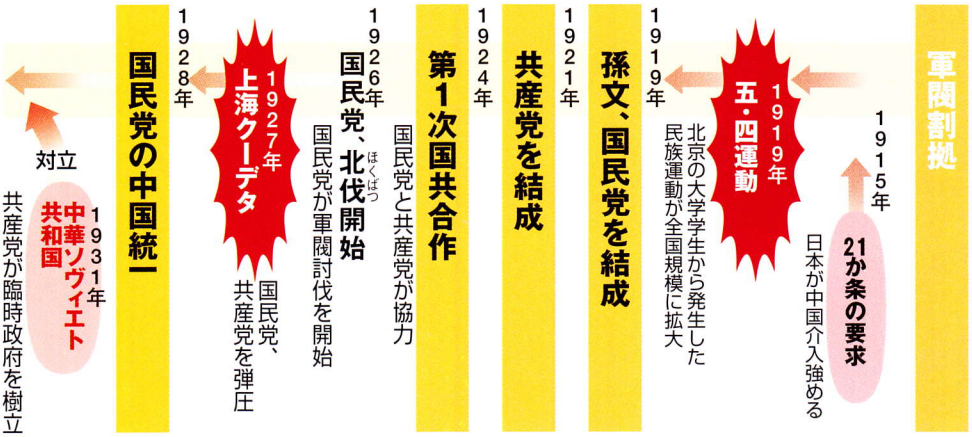
88 中国の民族運動

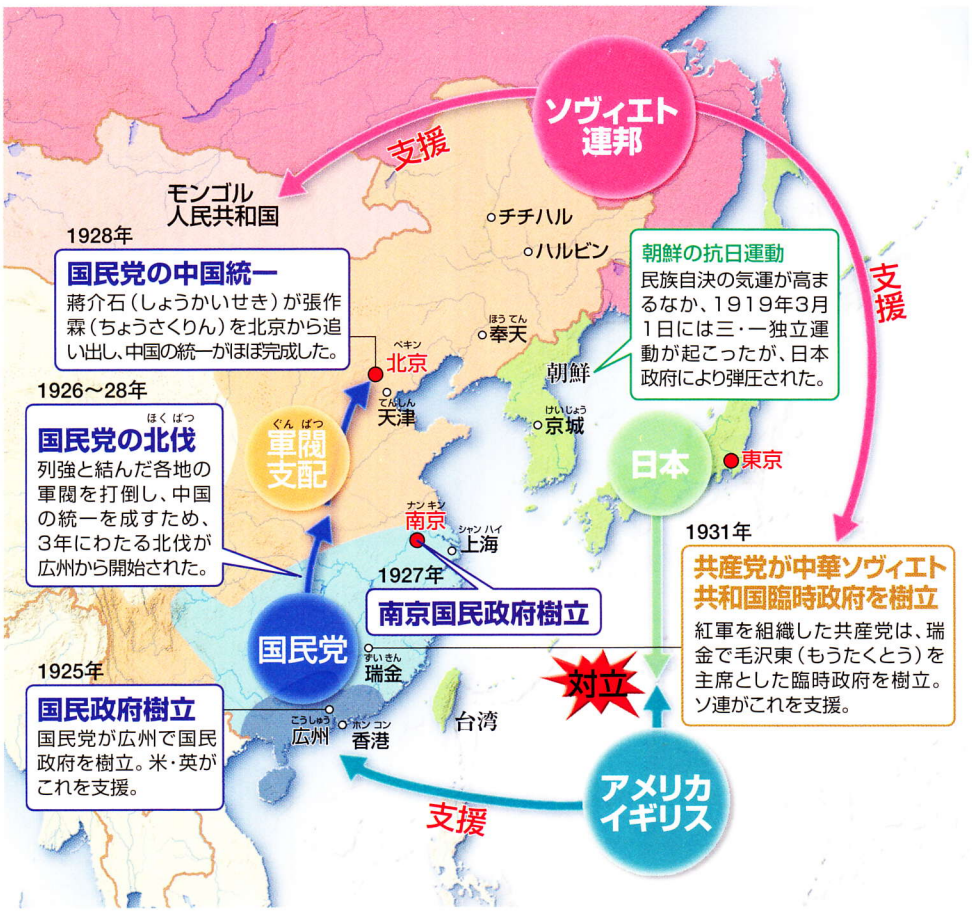
国民党が軍閥を打倒し、中国を統一

20世紀前半

民衆運動が高まった中国では共産党が成立。さらに国民党を率いた蔣介石が北伐により軍閥を打倒して中国を統一した。

第一次世界大戦後の中国





21か条の要求への反対から高まった中国の民族主義運動

1915年、中国は日本から旅順、大連の租借期限延長などからなる**21か条の要求**を突きつけられたが、軍閥が割拠する中国にこの要求を退ける力はなかった。第一次世界大戦後、中国はパリ講和会議で21か条の要求の撤回を求めたが、これが認められなかったため、19年5月4日、北京の大学生が抗議運動を開始。この**五・四運動**は反帝国主義・反軍閥を掲げた全国的な民衆運動へと発展した。

これを機に、同年**孫文**は**中国国民党**を組織、また、雑誌『新青年』などを発行して新文化運動の中心的役割を果たしていた**陳独秀**らは21年にコミンテルンの指導下で**中国共産党**を結成した。ロシア革命を学んだ孫文は、革命勢力を結集させるため「連ソ・容共・扶助工農」の路線を打ち出し、24年には共産党と協力する**第1次国共合作**を実現。25年、孫文が死去するが、同年、国民党は広州に国民政府を樹立する。

翌26年から国民革命軍を率いた**蔣介石**が**北伐**を開始。各地の軍閥を打倒するとともに、共産主義の台頭を恐れる浙江財閥らに支援された蔣介石は、27年に**上海クーデタ**を起こして共産党勢力を弾圧し、南京に新たに**国民政府**を樹立した（**国共分裂**）。その後も北伐を続けた蔣介石は、28年に奉天派軍閥の**張作霖**を退けて北京に入り、全国統一をほぼ達成した。

一方、国共分裂後、農村を根拠地とした共産党は、土地改革を進めながら**紅軍**を組織して勢力を拡大。31年には瑞金に**毛沢東**を主席とする**中華ソヴィエト共和国臨時政府**を樹立した。

Key Word **21か条の要求** 第一次大戦中、日本は中国の袁世凱（えんせいがい）政府に対し、山東省の権益や旅順、大連の租借期限延長などを要求したほか、台湾の対岸である福建省の外国への不割譲などを求めた。1921～22年のワシントン会議の結果、日本の権益は縮小されたが、この21か条の要求は中国の民族主義意識を高め、その後の日中関係を悪化させた。